

このプログラムは、読み上げ対応用の文字プログラムです。

**横浜みなとみらいホール リラックス・パフォーマンス
世代、障がいをこえて楽しめるコンサート**

実施日 2024年(令和6年)11月17日(日曜日)

時間 15時から16時まで、休憩なし

会場 横浜みなとみらいホール 小ホール

横浜みなとみらいホール リラックス・パフォーマンスへようこそ！ コンサート中の過ごし方

リラックス・パフォーマンスでの「リラックス」は“寛容な”という意味。少し音をたてても、からだが動いても、大丈夫。障がいのある方や小さいお子様と一緒にの方など、ホールでの音楽鑑賞に不安があるあらゆる方が、安心して一緒に音楽を楽しめるように、様々な工夫をしています。たとえば…

1. 客席の照明を完全に暗くしません。
2. 手話通訳があります。
3. 上演中に休憩が必要になった場合は、客席の外に出て休憩できます。途中で席に戻ることもできます。
4. 席に戻りづらい場合や、一時的に席を移動したい場合などにお座りいただけるフリーエリアがあります。
5. ヒアリンググループ席で使う専用受信機や、字幕タブレット、レーザ網膜投影視覚支援機器の貸し出しがあります。点字版曲目リスト、拡大文字・白黒反転版も用意しています。

お客様へのお願い

1. 客席では食べたり飲んだりできません。
2. 携帯電話やアラーム付き腕時計などは音の出ない設定にしましょう。
3. 公演の写真撮影、録音、録画はできません。

コンサートを楽しむために

1. コンサートが始まる前にトイレに行っておきましょう。
どうしてもトイレに行きたくなったら、他の人のじゃまにならないように、そーっと行きましょう。
2. 演奏している間は座りましょう。
立ち上がると、後ろの人が見られなくなります。演奏の途中で休憩が必要になったら、そーっと客席の外に出て

も大丈夫です。

3. ステキな演奏には拍手をしましょう。
演奏が終わった時に、たくさんの拍手をしましょう。

(コンサート中の過ごし方終わり)

プログラム

1. オースティン作曲
人形の夢と目覚め・作品 202-4 【ピアノソロ】
2. チャイコフスキー作曲
バレエ音楽『くるみ割り人形』から「行進曲」より 【2
台ピアノ】
3. オッフェンバック作曲
オペラ『ホフマン物語』より「オランピアのアリア」【ソ
プラノ&ピアノ】
4. ラヴェル作曲、たかはし ゆきよ編曲
『マ・メール・ロワ』より第3曲「パゴダの女王レドロネ
ット」【連弾ピアノ&フルート】
5. ポルディーニ作曲
『7つのマリオネット』より第2曲「踊る人形」【ヴァイ
オリン&ピアノ】
6. ストラヴィンスキー作曲
『ペトルーシュカ』より「ロシアの踊り」、「ペトルーシュ
カの部屋」、「謝肉祭」【2台ピアノ】
7. ラヴェル作曲
ラ・ヴァルスより 【2台ピアノ】

(プログラム終わり)

出演

ピアノ:いまだ あつし

にしむら しょうたろう

ヴァイオリン:しのはら ゆうな

フルート:たくわ れいこ

ソプラノ:しみず りえ

ナビゲーター:つかもと えりこ(東京文化会館ワークショップ・リーダー)

サインミュージック/ろうナビゲーター:

ユミコ・メアリー・カワイ

ササ・マリー

構成:あらい おーこ

(出演、構成終わり)

曲目解説

今日のコンサートでは、「お人形」や「踊り」をテーマにした、はなやかな音楽をたっぷりとお楽しみいただきます。

1. オースティン作曲

人形の夢と目覚め・作品 202-4 【ピアノソロ】

ピアノのお稽古でもおなじみのこの曲は、タイトルが示すとおり、お人形が眠りに落ち、夢見る世界を描きます。最初は子守歌で始まります。やがてお人形は眠りにつき、曲の間では、夢の中でのびのびと過ごしているようです。最後は目を覚ましたお人形が、元気にステップを踏んで踊ります。作曲したオースティンは、19世紀のドイツのピアノの先生です。

2. チャイコフスキー作曲

バレエ音楽『くるみ割り人形』から「行進曲」より 【2台ピアノ】

バレエ『くるみ割り人形』のお話を知っていますか？少女クララがクリスマス・プレゼントに贈られたステキなくるみ割り人形が、夜になると王子様に変身し、クララをお菓子の妖精の国へと連れて行ってくれる物語です。「行進曲」は、子どもたちがクリスマスツリーの周りで楽しく踊る場面の音楽です。

3. オッフエンバック作曲

オペラ『ホフマン物語』より「オランピアのアリア」【ソプラノ&ピアノ】

この歌劇の主人公ホフマンは恋多き詩人です。ある時ホフマンは、ゼンマイ仕掛けのお人形オランピアに心を惹かれ

ます。このアリア(オペラで歌手がたっぷりと聴かせる歌)は、オランピアが生垣の小鳥たちに向かって可愛らしく歌う曲です。まるでお人形が歌っているかのように、歌手が高い声で、はなやかに歌いあげます。

4. ラヴェル作曲、たかはし ゆきよ編曲 『マ・メール・ロワ』より第3曲「パゴダの女王レドロネット」 【連弾ピアノ&フルート】

おとぎ話をテーマとした音楽『マ・メール・ロワ』(「マザー・グース」のフランス語)の中の一曲です。パゴダとは、陶器でできた中国風のお人形のこと。パゴダたちが歌や楽器で明るい音楽をかわいらしく演奏し、レドロネット姫にお聞かせしている様子を描いています。おもちゃが大好きだったフランスの作曲家ラヴェルが作りました。

5. ポルディーニ作曲 『7つのマリオネット』より第2曲「踊る人形」【ヴァイオリン &ピアノ】

軽やかな三拍子にのって、お人形が優雅にワルツを踊っている姿を伝えるこの曲は、『7つのマリオネット』という曲集の中の一曲です。ポルディーニという作曲家がピアノのために作りましたが、有名なヴァイオリニストのクライスラーがアレンジして演奏したことで広く知られるようになりました。

6. ストラヴィンスキー作曲 『ペトルーシュカ』より「ロシアの踊り」、「ペトルーシュカの部屋」、「謝肉祭」【2台ピアノ】

バレエ『ペトルーシュカ』は、お祭り広場の人形芝居小屋で、ペトルーシュカ、バレリーナ、ムーア人という3体の人形た

ちが、まるで人の心を持ったように恋をしたり、争ったりしながら、さまざまなドラマを展開するバレエです。中でも、はなやかなこの3つの曲は、2台のピアノでもよく演奏される名曲です。

7. ラヴェル作曲

ラ・ヴァルスより【2台ピアノ】

最後の一曲は、ふたたびラヴェルの音楽です。「ラ・ヴァルス」とは、フランス語で「ワルツ」のこと。ラヴェルがこの曲を作ったのは20世紀(1920年)ですが、19世紀の古き良き時代の舞踏会をイメージして作曲されました。きらめくシャンデリアや、ドレスで着飾った人々の姿が目に浮かぶ輝かしい音楽です。

(曲目解説終わり)

出演者プロフィール

ピアノ:いまだ あつし

浜松国際ピアノコンクール第4位及びエリザベート王妃国際音楽コンクールファイナリスト入賞。第11回東京音楽コンクール第2位。第38回横浜市招待国際ピアノ演奏会出演。2021年ファースト CD をリリースし音楽現代にて推薦盤、レコード芸術準特選版に選出される。東京藝大、英国王立音大、ライプツィヒ演劇音大を卒業。現在東京藝術大学、名古屋音楽大学非常勤講師。

ピアノ:にしむら しょうたろう

東京藝術大学および大学院を首席で卒業・修了。その後渡欧し、イモラ国際ピアノアカデミー(イタリア)を修了。「感情的かつ緻密さを兼ね備えた音楽家」と称され、多岐の分野にわたり好評を博す。第14回東京音楽コンクールピアノ部門第2位及び聴衆賞。東京藝術大学、桐朋学園大学、埼玉県立大宮光陵高等学校、桐朋女子高等学校音楽科[男女共学]各非常勤講師。

ヴァイオリン:しのはら ゆうな

桐朋学園大学大学院修士課程修了。第11回東京音楽コンクール第2位受賞。カルテット・アマービレの第1ヴァイオリン奏者として第65回 ARD ミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門第3位受賞。2024年より日本センチュリー交響楽団客員コンサートマスター。使用楽器は1832年製 G.F.プレッセンダ ex “カール・フレッシュ”(宗次コレクション)。

フルート:たくわ れいこ

上野学園大学演奏家コース卒業。桐朋学園大学研究科修了。第11回東京音楽コンクール第2位、第82回日本音楽コンクール第2位他。東京文化会館主催「モーニングコンサート」、東京オペラシティ文化財団主催「B→C(B to C)」リサイタル、NHK-FM「リサイタル・パッショ」に出演。現在、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団首席フルート奏者。

ソプラノ:しみず りえ

東京音楽大学オペラコース卒業。同大学研究生修了。2003年、2011年イタリア・ボローニャに短期留学。第41回日伊声楽コンクール第1位。第7回東京音楽コンクール第2位、及び聴衆賞。これまでに、『リゴレット』ジルダ、『椿姫』ヴィオレッタ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『魔笛』パミーナ等のオペラに出演。「第九」や宗教曲のソプラノソロを務める他、各種コンサートに出演。藤原歌劇団団員。

ナビゲーター:つかもと えりこ(東京文化会館ワークショップ・リーダー)

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学大学院修士課程オペラ科修了。BS フジ「ポンキッキーズ」第11代目歌のおねえさんを務める。オペラ、ミュージカル、司会、ナレーションなど、多彩な表現で音楽交流を実践。論語指導士としても活動し、子どもたちに音楽の楽しさと学ぶ喜びを伝えている。鹿児島女子短期大学児童教育学科特任講師。特技はなわとび。

サインミュージック/ろうナビゲーター：
ユミコ・メアリー・カワイ

ろう俳優。NHK 土曜ドラマ「デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士」、GAGA「ぼくが生きてる、ふたつの世界」、ものがたりグループ☆ポランの会など多数出演。「ミナテマリ」として、聾者の言語、文化を生かしたワークショップ等を展開。

ササ・マリー

Sign Poet(「てことば」で詩を紡ぐろう詩人)、ミュージック・アクセシビリティ・リサーチャー。五感で感じる空間インスタレーションとポエトリー・リーディングを展開。「ミナテマリ」としてワークショップ等を展開。九州大学大学院芸術工学府博士後期課程在学中。令和6年度文化庁新進芸術家海外研修制度(特別)研修員。

(出演者プロフィール終わり)

横浜みなとみらいホールの取り組みについて

横浜みなとみらいホールでは、音楽を通じて子どもたちや高齢者、子育て世代、ビジネスパーソン、障がいの有無や国籍、経済的状況に関わらず、あらゆる人が文化的につながる機会や多様な表現や価値を互いに尊重できる場をつくる取り組みを行っています。また、コンサートホールが音楽鑑賞・表現の場としての役割のみならず、音楽で社会課題を解決する機能を併せ持ち、共生社会の要となることを目指しています。

(横浜みなとみらいホールの取り組み終わり)

主催：横浜みなとみらいホール(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)

連携：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化会館

協力：東京藝術大学演奏芸術センター、横浜人形の家

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業[地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業]) |

独立行政法人日本芸術文化振興会

神奈川県マグカル展開促進補助金